

事前評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	野菜栽培ほ場における温室効果ガス亜酸化窒素発生抑制技術の確立	
研究期間	R5年度 ~ R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.8
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.2
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.2
	総合評点	3.4
[評価所見]		
<p>・本課題を構成する3つの小課題が研究期間の3年間で連携しながら進められると理解したが、生産現場で実効性を担保するためにも慣行施肥体系との連携を踏まえた検証や技術開発が必要と思われた。</p> <p>・県内の施肥状況とN₂Oの発生関係が示され、それに対する対策技術も合わせて検討するため、成果に期待できる。一方で、気温、雨量も定期的に測定してもらえると良いように感じた。</p> <p>・県産露地栽培が多く行われているスイートコーンとナスで取り組むことは良いことだが、スイートコーンやナス栽培者はマルチを利用するので「マルチ有」だけでいいと思う。過剰な窒素施肥や有機物施用がなされているか現地の施肥基準調査を行った方が良い。地域で土質が異なるので検証地域も明確にした方が良く思う。</p> <p>・亜酸化窒素の抑制技術はこれからの地球環境に必要な温暖化対策で、それにより将来的に安定した農業が持続できると思われる。生産性・品質を落とさずに収量の確保もしっかりできる技術の確立を期待したい。</p>		

事前評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	果樹や野菜におけるバイオ炭を用いた土壌炭素貯留効果の検証	
研究期間	R5年度 ~ R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	4.0
2	研究内容の新規性	3.8
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.8
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.6
	総合評点	3.8
[評価所見]		
<p>・世界的規模で対策が求められている温室効果ガスの抑制に果樹生産から取り組む山梨県らしい研究課題である。単独研究室でできることを見極めながら、成果が得られた後の技術等の波及方法について県内はもとより、福島県や岡山県など果樹生産に力を入れる自治体とも情報共有することで全国でのCO₂削減活動の取り組みに発展することが期待される。</p> <p>・非常に重要なテーマなので山梨県が先導して研究を実施して欲しいと考えます。期待しています。</p> <p>・スイートコーンは栽培終了後にすき込みをして、後作は水稲が大半なので、ナスのみの実証でも良いのでは。もみ殻燻炭も果樹園・野菜畑・水田導入試験を検討してはどうかと思う。水田輪作体系(ナス+スイートコーン+水稲)において作成可能な籾殻くん炭の活用も併せて検討とあるが、ナス(作型終了後の籾殻くん炭)+スイートコーンではいかがか。</p> <p>・バイオ炭による土壌炭素貯留効果を数値化することにより、CO₂排出量削減効果がわかるのはいいのですが、バイオ炭を畑に入れた時の作物へあたえる影響も研究してほしい。</p>		

事前評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	秋出しコチョウランの省エネ品質向上技術の確立	
研究期間	R5年度 ~ R7年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.8
2	研究内容の新規性	3.6
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.8
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.6
	総合評点	3.7
[評価所見]		
<p>・県内花き作物の主力となるコチョウランの産出額向上のため、栽培・出荷期間を秋期まで延長した生産体系を構築することは意義深い。また、本課題では施設栽培としてかかるコストの削減も視野に入れていることから経営面でも現場目線で評価する体制が整っている。研究期間終了時の成果を期待したい。</p> <p>・前半の光量をいかに抑え、後半の光量との理想的な割合を実現するのか、また、後半の光量を維持したまま前半の光量だけ下げた場合の品質も気になるところです。期待しています。</p> <p>・20年後には山梨も九州地方並みに気温上昇が考えられるので、生産農家には必要な課題である。コチョウランの生産には、冷暖房を用いてハウス内を最低18℃、最高25℃で管理すれば良いことが分かっていることから、本試験ですべき対策が明確である。</p> <p>・光量を管理する方法が上手くできれば、今後の秋出し胡蝶蘭の品質向上につながり、冷房のコストダウンもできれば、産地の維持にもなるので期待したいです。</p>		

事前評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	県単	
研究課題名	富士湧水を利用した地域特産野菜類の生産技術の確立	
研究期間	R5年度 ~ R8年度	
	評価項目	評価点
1	研究の必要性	3.6
2	研究内容の新規性	3.4
3	研究目標、研究計画の妥当性	3.6
4	研究体制、研究予算の妥当性	3.4
	総合評点	3.5
[評価所見]		
<p>・これまでのクレソンをどのようにアピールしながら販売されていたのか不明だが、この試験で成果が得られた暁には富士山麓の「湧水栽培」を是非ともブランド化できないか検討頂きたい。Googleで当該単語を検索すると、まずは静岡のワサビがトップでヒットする。次は岐阜県のシイタケ、さらに次は北海道のパプリカである。ネットでも上位でヒットするようなブランド化を目指して頂きたい。</p> <p>・必要な研究である。計画の具体性をもう少し示してほしいと思いました。ですが、とても期待しています。</p> <p>・産地維持には不可欠な試験だと思う。花いかだ栽培は良い手法と思う。復活品目の生産技術で、ニンニク、ホウレンソウ、麦とあるが、湧水栽培で行うのかが分かりにくかった。</p> <p>・富士湧水を利用した栽培は冬に水に入っている作業なので、新規栽培者の参入が無いことにつながっていると思う。花いかだ栽培など、栽培方法と伝統的な栽培方法を上手に融合させて新しい栽培体系が生まれ、作りやすい品種などを選定して産地の維持や発展につなげる研究にしてもらいたい。</p>		

中間評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	施設栽培における難防除細菌性病害発生要因の解明と対策	
研究期間	R3年度～R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	3.6
[評価所見]		
<p>・トマトかいよう病菌が栽培施設内の資材から検出されたことは、生産者に圃場衛生管理を喚起する上で重要な証拠となる。また、サンプリング時における菌の採取に適正な綿棒規格が明らかになったことは今後の施設内検査に有効である。令和2年度の事前評価会資料では、2年目の対象病害としてトマト茎えそ病や軟腐病菌の分布調査も予定されているが、そのことへの言及が認められない。これまで見落としていた新たな課題(トマト葉かび病対策)に取り組む姿勢は評価できる。しかしその一方、令和2年度事前評価会議資料では、当該病害は糸状菌病害のため対象病害ではなかった。山梨県内での事業の計画変更手続きが不明だが、研究推進上この小課題の整合性が認められるのか危惧される。当初計画と現行の試験内容との整合性に留意し、残されている計画(トマトの茎えそ病、軟腐病、およびパプリカやパクチーにおける菌分布解明、さらに難防除細菌性病害に有効な資材消毒剤や防除薬剤の評価)への対応方針を定めて試験計画の進行管理に務めて頂きたい。</p> <p>・順調に進捗している。綿棒4mmのほうが検出率が高くなる理由の説明がほしい。今後、対象施設を増やして調査するのでしょうか。</p> <p>・県内の施設野菜においては、かいよう病自体の発生が少ないのではないかとと思われる。葉かび病は、今ある薬剤において、耐性菌がでていと言われていた。早期に体系防除確立と新系統薬剤開発が望まれる。</p> <p>・菌の存在位置は、しらみつぶしで探していくしかないので、順調に進んでいると思われます。薬剤の研究も進めて防除体系の確立を目指してもらいたい。</p> <p>・農家の生産安定にもつながる。</p>		

中間評価報告書

R4年8月23日(火)

研究種別	成長戦略研究	
研究課題名	県産主要鉢花における高温対策技術の確立	
研究期間	R3年度 ~ R5年度	
	評価項目	評価点
1	研究計画の進捗度	3.8
[評価所見]		
<p>・県内主力4品目の花き類に発生する高温障害の原因を究明し、それらを回避するために各品目の栽培体系に応じた経営的にも合理的な対策技術の適応性を検討している。現時点までの試験研究は順調で、得られている結果も妥当である。残された期間で取り組む課題も、これまでの結果を踏まえた現実的な試験が計画されている。これまでに得られた高温障害の発生原因などについては、可能であれば本研究課題の終了を待たずして、県内生産者の方々と情報共有を図ることが重要と思われる。もしかしたら、現場から効果的なアイデアがフィードバックされるかも知れない。</p> <p>・順調に進捗している。高温対策にかかるコストについても示して頂けると良いと思います。具体的にハウ素量を示して頂けると理解しやすいです。</p> <p>・原因と対策が明確になっているので、結果が出たものから現地で早急に実施できるよう周知していくのが良い。</p> <p>・昨今の異常気象や温暖化の影響で高温対策の技術が必要とされている中で、順調に進んでいると思われます。いま以上に高温になることも考えて、効果の高い高温対策技術の確立を期待したいです。</p> <p>・夏期の高温障害に対する成果は、今後の温暖化に向けた研究として期待できる。</p>		